

# 平成29年度予算見積調書

課室名：道路環境課  
 担当名：交通安全施設整備担当  
 内線：5097 (単位：千円)

番号	事業名		会計	款	項	目	説明事業	
B51	駅みちネットワークづくり事業費		一般会計	土木費	道路橋りょう費	道路維持費	自転車歩行者道整備費、社会資本整備総合交付金（交通安全）事業費	
事業期間	平成29年度～平成33年度	根拠法令	道路法 交通安全施設等整備事業の推進に関する法律		挑戦項目 分野施策	020411 交通安全対策の推進		
1 事業概要			5 事業説明					
<p>駅周辺の道路は歩行者や自転車利用者が多いが、幅の狭い歩道の割合が高く、安全な道路環境が整備されていない箇所がある。</p> <p>今後の高齢化の進展や交通事故死者数の状況を踏まえ、駅周辺の道路環境を改善するため、市町村道も含めた道路ネットワークを考慮し、歩道拡幅及び新設・波打ち歩道解消・側溝蓋改善・自転車通行空間整備を行う。</p> <p>また、整備項目を組み合わせ、市町村道のハード整備や交通規制などのソフト対策と連携を図ることで、事業費の抑制及び事業期間の短縮を図る。</p> <p>(1) 駅みちネットワークづくり 698,980千円</p>			<p>(1) 事業内容                      駅周辺の道路は多くの県民が通行するが、狭い歩道の割合が高いなど、道路環境が貧弱な箇所がある。また、高齢者の歩行中や自転車乗車中の死亡事故が多い現状であり、今後は急激な高齢化が予想されている。そこで、駅周辺にエリアを絞り、県管理道路と市町村道を含めた道路ネットワークを考慮し、歩道拡幅及び新設・波打ち歩道解消・側溝蓋改善・自転車通行空間整備を組み合わせ実施する。</p> <p>(2) 事業計画                      平成29年度から平成33年度までの5年間に、10駅周辺において道路環境を整備する。                      平成29年度事業箇所 和光市駅周辺（和光志木線）外8箇所</p> <p>(3) 事業効果                      歩道整備により、歩行者と自動車を物理的に分離し、また自転車の通行位置を明示することにより、歩行者と自動車、歩行者と自転車の接触事故減少が図られ、安全な道路環境が整備される。また、全区間で歩道整備をするのではなく、波打ち歩道解消や側溝蓋改善で対応する区間や市町村道を活用することを組み合わせることにより、事業費の縮減、事業期間の短縮が図られる。駅までの動線を県管理道路と市町村道とで役割分担し、市町村道のハード整備や交通規制などのソフト対策と連携を図ることで、最大限の事業効果を発揮することができる。</p>					
2 事業主体及び負担区分 (県10/10) 社会資本整備総合交付金事業分 (国5.5/10・県4.5/10)								
3 地方財政措置の状況 地方道路等整備事業債 充当率 90% (交付金分) 公共事業等債 充当率 90% 元利償還金交付税措置 財対分 50%								
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×1.0人=9,500千円								
予算額		財源内訳					一般財源	前年との対比
決定額	698,980	国庫支出金	16,500	県債	681,000		1,480	698,980
前年額	0						0	